

福島県立医科大学附属病院における災害研修プログラム

日 時：2015年11月29日（日）（9：00～12：00）

場 所：福島県立医科大学附属病院 カンファランス1

参加者：福島県立医科大学附属病院職員（病院経営課・看護部・医事課・医療連携・医療情報部・総務課施設・栄養管理・DMAT看護技師等）36名

ファシリテータ：建築学科学生6名、薬学部生3名、大学院生（社会開発工学専攻）2名

今回の見どころ

摂南大学では、2014年に病院の事務系職員を対象とした研修プログラムDT-Hを開発し、山形県立中央病院にて実施しました。また、2015年8月には「複数病院で成り立つかどうか」を目的として、兵庫県立13病院を対象に改良版DT-Hを行いました。そして今回の福島県立医科大学附属病院では、病院側のニーズに合わせたDT-Hを行いました。ニーズの1つとしては、これまでのDT-Hは事務系職員を対象としていましたが、今回は看護職員も加わり、異職種連携のプログラムとする事でした。また、2つ目のニーズとしては、病院内の電気系統トラブルの経験から、カードにその事案を入れることでした。

プログラム実施風景



最初に、プログラムの内容と進め方について説明しました。



服装からも異職種連携プログラムである事が分かります。



次々と起こる事案にチームで話し合っ
て対応を決め、カードに書き込みます。



病院の図面も確認しながら事案への対応
を考えていきます。



施設担当職員が他の人にレクチャーを
する姿も見られました。



各班から、重要・緊急な課題について、
また、事案への対応結果について情報共
有しました。

プログラム実施結果

ゲーム開始直後は、プログラムのルールや進め方について、理解にご苦労されている様子も見受けられました。しかし、ゲームが進むにつれて、災害時の状況を想像し、どのように対応するか等、身を乗り出して議論されていました。終了後、「停電の時を思い出した」、「他職種はどう動いているのか知ることが出来た」など様々な意見を頂きました。そして、病院のニーズに合わせたDT-Hは研修として成立し、効果もあったと思われます。

今回のプログラムにご参加頂いた福島県立医科大学附属病院の職員の皆様、ありがとうございました。また、プログラム実施にあたり、弘前大学大学院医学研究科福田幾夫先生にご協力頂きました。心より感謝申し上げます。